

ひ お ま

2008. 3

Vol.35

HIOKI-City <http://www.city.hioki.kagoshima.jp/>

主な記事

- 特集:協働による地域づくりの推進2
- 日置地区生涯学習推進大会4
- 南九州美術展5
- 地域女性大会6
- まちの話題7
- 市民の広場18



協働による地域づくりの推進

特集

助け合い・支え合う
新しい行政の仕組みづくりを目指して

どうして協働なの？

地方自治体を取り巻く環境は、少子高齢化の影響による世界にも類を見ない人口減少社会の到来や、国から都道府県・市町村への権限や財源を移譲し、地方分権を進めるといふ流れの中、住民と地方自治体の判断と責任による、地域の特徴を生かした活力ある地域づくりが求められています。

また、住民が行政に求めるニーズ（要求）も多様化し、これまでのように行政を中心とした公共的サービスの提供は、質的にも量的にも限界があることから、地域のさまざまな課題の解決や行政サービスを住民はもとより、まちづくりの最前線である自治会やNPO、ボランティア団体、企業等の多様な主体（パートナー）とが、ともに協力し支えあうことにより、市民が生涯を通じて安心して暮らせる社会を構築していく必要があります。

地域活動の拠点づくり

本市は、平成十八年四月に策定しました「日置市総合計画」の中で、地域の活性化を支える組織活動を充実するために、市内全域に三層構造による自治組織を確立するということを掲げています。

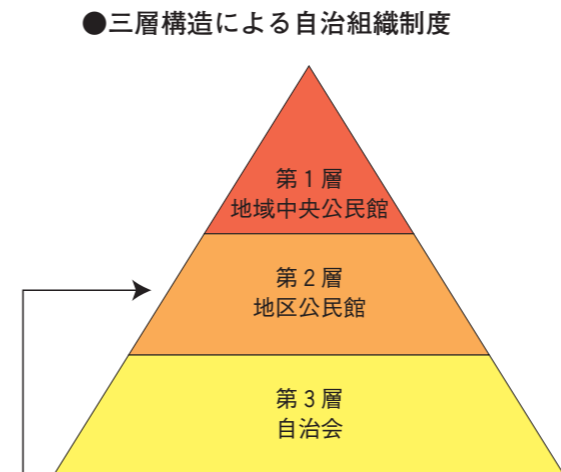
これを受けて本年度、市内にある十九の小学校区と、かつて小学校区であった七つの地区、合わせて二十六の地区公民館を整備し、公民館制度をスタートしました。この地区公民館は、「地域づくり」や「生涯学習」、「情報化」の拠点として位置付け、昨年六月からは、住民票や印鑑証明書等の証明書発行業務（一部を除く）を開始しました。地区公民館は、三層構造による自治組織の第二層にあたるものです。（下図参照）

地区公民館活動の組織確立のねらい

これまで地区公民館活動は、社会教育としての役割が主でした。

日置市では、二十一世紀の新しい地方自治の姿として、自治会やNPO、ボランティア・企業等、多様な主体（パートナー）と行政が、相互の理解と信頼のもと、目的を共有し、連携・協力して地域の公共的な問題を解決する「共生・協働の地域づくり」を目指した取り組みを進めています。

協働とは？
「住民と行政、または住民同士が、それぞれの特性を活かし、お互いを尊重しながら、足りないものを補完し合い、問題解決にあたること」を言います。



- 地区公民館の役割
 - 【地域づくりの拠点】 相談業務・地域振興計画策定、共生・協働、市民参画の推進
 - 【生涯学習の拠点】 生涯学習の推進・人材育成・自治会への指導・援助
 - 【情報化の拠点】 証明書発行業務・議会中継など
- 取り扱う証明書等
 - ・住民票の写し ・印鑑登録証明書
 - ・所得証明 ・納税証明 ・公課証明
 - ・資産証明

た。従来の地区公民館は、趣味や教養的な講座が中心になり、世の中の変化に対応する、地域課題・生活課題・行政課題といった社会的課題への取り組みがおろそかになっていた傾向があります。私たちの生活周辺では、少子高齢化に伴う地域活性化の問題、子どもの健全育成や安全を取り巻く地域教育力の問題、環境問

題、農業や商工業の振興、生活習慣病からくる医療費の増大、健康保険や介護保険制度、道路や遊び場などの地域インフラ整備等、課題が山積しています。これらは、これまで主に行政の課題だと思われてきましたが、最近このような課題解決に当たって市民の力が注目されるようになりました。役に立つ社会教育を推進する

ためには市民の持つ課題解決の力に注目し、身近な場所、身近な人々が、身近な課題に、取り組むことが可能な体制を、市民と行政の協働社会として位置づけていくことが必要です。その一翼を担うのが地区公民館制度で、今後、地区公民館が、それぞれの地区での地域づくりの拠点として重要な役割を担うこととなります。

特集 協働による地域づくりの推進



「行政に頼らない地域づくり」を掲げ、住民総出の生産活動を通して、過疎高齢化対策に立ち上がっている鹿屋市柳谷町内会に学ぼうと、先進地研修を行った下与倉自治会（吹上）の皆さん。

（平成 18 年 12 月 3 日）

地区公民館の事業と活動

地区公民館には、条例公民館という「館」を中心に学級や講座の開設や人材育成を行う公民館事業と、自治公民館という自発的な組織によって行われる公民館活動があります。

市民が主役となった地域づくりを推進するためには、市民がまず地域の課題に気づくこと、次にその解決のための方法を知ることが大切です。課題に気づき解決策を知ることが共同参画にあたります。

地区公民館制度では、各種学級や組織・団体等の事業と活動を通して地区単位の課題や問題点を明らかにし、自分たちでできることは自分たちで、自分た

ちでできないことは行政の助けを求めようとするものです。

「自助」「互助」「公助」による町づくりの考え方

個人や家族で行い（自助）、個人や家族ではできないことは地域等で取り組み（互助）、個人や家族、地域でできないことは行政が担う（公助）ことが基本となります。住民・地域・各種団体等、行政が「自助・互助・公助」の役割分担を明確にし、自立の精神をもってお互いに協力し、相互の協働のもとにまちづくりを推進していきます。

「参加」から「参画」へ（地区振興計画の策定）

地区公民館制度の導入に合わ

せて、本年度全ての地区で「地区振興計画」の策定を進めていきます。

地区振興計画は、本市が平成二十一年度以降に取り組む事業の基礎資料であると同時に、地区の直面する課題を、市民と行政の協働関係により解決の方向を探る、市民参画の事業です。

この計画を策定する目的は、各地区が自らの地域を見直し、コミュニティ活動の充実や地域のあり方を再検討する機会を設けるとともに、市内各地域の状況を互いに把握・理解し、活動の活性化や連携を促進させることにより、市民と行政が相互に理解し、それぞれの責任の中で役割分担を行う「協働の社会」の実現を目指すものです。

話し合い活動が始まっています

市では、昨年後半より、各地区公民館や自治会の関係者の皆さんを対象に説明会を開催し、各地区館においては話し合い活動がスタートしています。また、それぞれの地区館には、計画策定における助言やサポートのために、市の職員を配置しました。今後、策定作業がスムーズに進むよう支援していきます。

なお、この計画の提出は、本年八月末となっています。

日置市での共生・協働の事例

東市来地域 高山ふるさと秋祭り

東市来地域の高山地区は、山間部に位置し、すぐ北側はいき串木野市や薩摩川内市等に隣接しています。また、この地区は、全国の農村共通の悩みである過疎化、少子高齢化、そして農林業の不振などの課題に直面しており、この厳しい現状を踏まえ地区交流センターを話し合い活動の拠点として村づくり運動を展開するなか、地区の活性化を図るた

め、地域の素晴らしい豊かな自然や文化・歴史を活かした都市と農村の触れ合いのできる体験型の祭りを企画し、毎年十一月に開催しています。このイベントを通して、地域内外へ高山地区を広く周知することができ、合わせて地域住民が高山の豊かな自然、文化・歴史等を再認識すると共に、地域住民の連帯感を強め、地域の活性化につながっています。



▶八房やぶさ川の清流を利用したス釣り大会



▲かざら工芸



▲竹炭づくり体験



鹿児島県教育委員会賞
二石 梨香(妙円寺小6年)

市内優秀受賞作品



日置市長賞
鶴田 知里(伊集院中1年)



秀作・力作ぞろい
一万点を超える応募

南九州美術展

第五十五回南九州美術展が開かれ、一月二十五日に行われた審査会で、美術部門特別賞(五〇点)、特選(一〇一点)、入選(六〇七点)、書道部門特別賞(二〇点)、特選(三二点)、入選(一八八点)が決定し、二月十四日から二十四日まで市中央公民館で入賞作品が展示されました。この美術展は、昭和二十八年に故門松周一画伯の「熱き思い」から第一回伊集院総合美術展として発足。芸術探求の中で画伯は「妙円寺詣り」で培われる武徳

だけでは、人間が武骨になるので心情も兼ね備えた青少年を育てたい」と思い、この情熱から美術展が誕生しました。その後、昭和三十八年の十回展から「南九州美術展」と改称。その参加応募は県内各地から寄せられ、今日まで続けられてきました。今年も県内各地の幼児から高校生まで、美術部門に七、六四〇点、書道部門に二、四八六点の応募がありました。市内の特別賞受賞者、学校賞は表のとおりです。(敬称略)



市中央公民館の展示作品を鑑賞する土橋小児童

美術の部

賞	部門	氏名	学校名
鹿児島県教育委員会賞	版画	二石 梨香	妙円寺小6年
南九州美術展賞	版画	新山 絢	土橋小3年
	描画	田口 美穂	吹上中3年
鹿児島県美育協会賞	描画	福丸 晏奈	日置小5年
KTS鹿児島テレビ賞	描画	後山登喜美	伊集院北小2年
	描画	紙屋 晃	湯田小6年
鹿児島放送賞	描画	有馬 瑠倭	伊集院北小5年
鹿児島県市長会会長賞	描画	濱田 一期	美山小3年
鹿児島市議会議長賞	描画	湯之上 蓮	日置小4年
日置市長賞	描画	川路 由依	土橋幼稚園
	デザイン	千田 直美	伊集院高校3年
	描画	高松 賢仁	伊集院小1年
学校賞(10校)		伊集院北小	
		土橋小	
		日置小	
		妙円寺小	

書道の部

賞	部門	氏名	学校名
日置市長賞	半紙	鶴田 知里	伊集院中1年
日置市議会議長賞	半紙	松下 沙織	伊集院中1年
日置市教育委員会賞	硬筆	前 美咲	妙円寺小1年
	条幅	村尾 文香	伊集院北中3年
南日本書道会賞	半紙	木山 志菜	湯田小6年
	四つ切り	荻 亜梨沙	伊集院北中1年
小倉博文堂賞	半紙	吉富あきは	伊集院小4年
	半紙	種子田 彩	伊集院北中2年
学校賞(2校)		該当なし	

日置地区生涯学習推進大会
日置市生涯学習大会



▲大会には約450人が参加



▲特色ある社会教育活動発表(中区子ども会の発表)



▲まちづくりシンポジウム(日置小親子読書会の発表)

「学校、地域、家庭の連携によるふるさとづくり・人づくり」をテーマに開催されたこの大会には約四百五十人が参加。式では、田畑誠一日置地区社会教育振興会長と佐保孝鹿児島教育事務所日置支所長のあいさつ、来賓のあいさつの後、表彰および表彰伝達が行われました。続いて、日吉地域の特色ある社会教育活動の発表が行われ、日吉地域の子どもたちが「せっ

べとべ」の踊りを披露。日吉伝統行事の伝承ぶりを伝えました。その後行われた「まちづくりシンポジウム」では、鹿児島教育事務所日置支所指導主事をコーディネーターにいちき串木野市の大里七夕踊保存会、日置小学校親子読書会がそれぞれの活動を発表しました。まちづくりシンポジウム後、鹿児島大学法文学部教授兼生涯学習教育研究センター長の原口泉先生が「篤姫 わたくしこと一命にかけ」という演題で講演がありました。

地区内の関係者が一堂に会し、永年にわたって生涯学習に功績のある団体・個人を表彰するとともに、それぞれの取り組みや具体的な活動発表、講演等を通して、これまでの学習の成果と今後の生涯学習のあり方を展望し、心豊かで充実した人生や潤いと活力のある郷土づくりに資することを目的として、三月一日、平成十九年度日置地区生涯学習推進大会および日置市生涯学習大会が日吉老人福祉センターで行われました。

日置市社会教育功労者・団体表彰

氏名	地域
田中 明	伊集院
内田 敦子	東市来
鮫島 育朗	東市来
重水 富夫	東市来
新村 利芳	東市来
今田 一森	東市来
木場 保幸	東市来
鳩野 學	日吉
上田平重夫	日吉
久保 勲一	日吉
新宅 礼子	日吉
柳原 績	吹上
脇田 篤美	吹上
宮下 昭人	吹上
徳田 長女	吹上
能勢 清美	吹上
伊集院小学校「おやじの会」	伊集院
和田地区公民館	吹上
藤元地区山茶花会	吹上

「篤姫 わたくしこと一命にかけ」講師 原口 泉 先生



鹿児島大学法文学部教授で生涯学習教育研究センター長の原口泉先生の講演が行われました。原口先生は、篤姫や日吉にゆかりのある小松帯刀公を話題に取り上げながら、「地域」で学ぶ生涯学習の大切さについて講演。ユーモアたっぷりの講演に参加者からは笑顔があふれていました。

平成19年度日置地区社会教育関係優良団体・個人表彰

個人・団体	表彰団体・個人名
個人	樋口 幸造
個人	田中 輝雄
団体	伊集院小学校「おやじの会」
個人	向原 幸雄
個人	有馬 澄子
団体	流鍋馬保存会

平成19年度県教育委員会表彰

表彰項目	個人・団体等
県教育委員会優良少年少女団体表彰	立野子ども会

平成19年度各種社会教育関係団体等全国・九州・県関係表彰等

表彰項目	個人・団体等
日本PTA全国協議会表彰	扇尾小学校PTA
全国子ども会連合会表彰	花田地区子ども会育成会
九州地区子ども会育成連絡協議会表彰	松山 謙三郎(東市来地域子ども会育成連絡協議会長)
県コミュニティづくり推進協議会花いっぱいコンクール表彰最優秀賞	伊集院北小学校PTA



▲樋口 幸造さん



▲鳩野 學さん

大会で表彰のあった市内関係者は次のとおりです。(敬称略)

日置市関係者紹介(敬称略)

区分	氏名	所属
監察員	米澤 幸	みなと病院
コーチ	今屋 讓	日置市消防本部
	船倉 利幸	日置市役所
支援コーチ	前屋敷 満	日置市役所
	小園 秀作	日置市役所
選手	小園 勇作	日置市消防本部
	馬場 亮治	ひまわり法律事務所
	徳重 祐児	日置市消防本部
	有馬 巧美	日置市消防本部
	篠原 正大	第一工業大学
	能勢 勇作	第一工業大学
	宇都 邦和	第一工業大学
	中村 泰士	志学館大学
	山下 和也	志学館大学
	下野 青海	鹿児島城西高等学校
	橋之口 仁	鹿児島城西高等学校
	早馬 悟	鹿児島城西高等学校
	松枝 翔	鹿児島実業高等学校
中間 純一	鹿児島実業高等学校	
田口 哲	伊集院高等学校	
松枝 拳	鹿児島城西高等学校	
右田 竜士	鹿児島南高等学校	
藤脇 孝哉	鹿児島実業高等学校	



▲宇都選手にトップでタスキをつなぐ田口選手(2日目・第3中継所:日置市役所前)

総合6位に躍進

第五十五回鹿児島県下一周市郡対抗駅伝競走大会

二月十六日から二十日までの五日間、十二地区(各地区登録選手二十一)を代表する選手が早春の薩摩・大隅路590.9km(五十三区間)を駆け抜けました。

日置チームは、郷土入りの二日目、地元の熱い声援を受けて激走。一区下野選手が二位に三秒差のトップに立ち、二区で一

時二位に後退したものの、三区田口選手が再びトップを奪い返すと、四区宇都選手、五区中間選手が後続を引き離し、串木野中継所では二位に約一分一〇秒の差をつけ郷土を駆け抜けました。日間優勝も期待されましたが、トップと一七秒差の日間三位でゴールしました。最終日では、若い力が爆発し、最終区までもつれた曾於との日間二位争いを三秒差で制し、目標の総合六位(昨年は七位)と躍進二位を達成しました。今回も高校・大学生の活躍が目覚しく、反省会では社会人選手も年間を通した強化を誓い合っていました。沿道でのたくさんのご声援ありがとうございました。



▲15回出場の日置市小園主将(前列左)

小園勇作主将が十五回目の出場。今回が十五回目出場の日置市小園主将(市消防本部・三十三歳)。日間優勝を目指した大会二日目のアンカーで出走し、二分弱あったトップとの差を一七秒差にまで詰める激走を見せ、自身初の区間賞を新記録で飾りました。また、三回目の出走となった最終日のアンカーでは、三八秒先行する曾於を逆転し、日間二位に大きく貢献しました。レース後は選手・スタッフが見守る中、奥さんの珠美さんと長男大貴くんから労いの花束が贈られ、感慨が深まったよう。「これからも後輩に『何か』を伝えるため、走り続けた」と話していました。



地域

女性大会

吹上地域の女性の日に

第二十九回吹上地域女性大会



▲活動発表をする女性団体代表



▲早朝から準備に追われました

吹上地域の女性団体関係者が一堂に会し、男女共同参画社会の実現を目指す機会にしよう、第二十九回吹上地域女性大会が二月九日、吹上中央公民館ホールで行われました。大会は、婦人会連絡協議会や更生保護女性会、商工会女性部など、九団体が加盟する吹上地域女性団体連絡協議会が主催して、生涯学習大会と共催で行われています。

各種女性団体では、女性大会を「吹上地域の女性の日」に掲げて準備を重ねてきました。団体の代表者は、壇上でそれぞれの活動目標と今年度の活動経過を報告。来場者に活動への理解と加入を呼びかけました。この日、来場者に振る舞われた豚汁は、女性団体が早朝から準備しました。その食材は、秋に行った不用品バザーの益金でまかなわれています。



▲ハーモニークラブの手話コーラスで開幕

一人ひとりが尊重される心豊かな地域社会をめざして

伊集院地域女性大会

社会情勢が急速に変化する現代、家庭・学校・地域・職場等で自らの個性と能力を生かし、各女性団体の連携と融和のもと、真の男女共同参画社会の実現を図るため、二月九日、市中央公民館で伊集院地域女性大会が開かれました。大会は、ハーモニークラブの手話コーラスで開幕。伊集院地域各種女性団体連合会の船迫ノブ子会長のあいさつ後、母子寡

青少年のために 明るい未来を

日吉地域女性大会



二月三日、日吉老人福祉センターで日吉地域女性大会が行われました。大会は吉利保育園児による和太鼓で開幕。講演では、県立南薩少年自然の家山崎洋一所長が家庭や地域社会の絆について話され、ユーモアあふれる話しぶりに会場は大爆笑でした。

その後、シンポジウムがあり、コーディネーターを中心に意見を出し地域・家庭・学校の子育てについての体験発表がありました。



▲福司山エツ子先生の講演

婦福祉連合会の窪田ヒロ子会長が活動発表を行いました。講演では、鹿児島女子短期大学の福司山エツ子先生が「高齢者の知恵と技を発信する日置の食育」と題して講演しました。

これまでの子育ての経験を生かし住みたい地域、帰りたい家庭、行きたい学校を目指しそれぞれの立場で出来る事などを参加者全員で確認しました。

バレーボールで汗を流そう

日吉地域自治会対抗ソフトバレーボール大会



日吉商工会議所青年部主催の第三十二回日吉地域自治会対抗ソフトバレーボール大会が一月二十日、日吉総合体育館で行われました。

五自治会十三チームが参加した大会では、かけ声や笑い声が飛び交い、どのチームも楽しそうにプレーしていました。結果は次のとおりです。優勝 熊野自治会 第二位 草原自治会 A 第三位 草原自治会 B

県高校新人サッカー大会初優勝で表敬訪問

鹿児島城西高校サッカー部



▲前列左から安田啓優くん(MF)、神園優くん(GK)、大迫勇也くん(FW) 後列右から3番目成元将平くん(DF)

第二十九回鹿児島県高校新人サッカー大会で優勝した鹿児島城西高校サッカー部が二月八日、市長を表敬訪問しました。鹿児島城西は、二月二日行われた決勝で鹿児島実業高校と対戦。前半四分に失点したものの、徐々に流れを押し戻し、前半終了間際同点弾を決めました。その後後半、延長とも一進一退の攻防を展開し、PK戦へ。PK戦ではGK神園くんが二本連続でPKを止め、勝利を決めました。



一月十五日、野口孝次さん（会長）を中心とする葉たばこ播種式が松ヶ尾集落（日吉）のピニールハウス内で行われました。

宮路市長やJAさつま日吉支所長、行政関係者が豊作を祈願し、手作業でまいていきました。

また、午後から日吉福祉センターでたばこ振興大会が行われ、日置市といちき串木野市から生産者七十五人が参加。県たばこ耕作組合の通高組合長のあいさつの後、平成二十年の改善策を話し合い、大会決議を確認しました。

葉たばこ播種式・たばこ振興大会ひおき2008

鹿児島県たばこ耕作組合南薩事務所



▲たばこ振興大会ひおき2008



▲葉たばこ播種式

新春の光に種をまく

平成二十年産葉たばこ播種式

平成二十年産の葉たばこ播種式が一月十五日、吹上町申田尻の共同育苗施設で行われました。

播種式には昨年同様九戸の葉たばこ農家をはじめ、農政関係者等が参加。今年の高値取引を祈願して乾杯のあと、早速種まきに取り掛かりました。

腐葉土を敷き詰めた箱苗に肥料をまぶした種がまかれると、黒かった土が一面茶色に。生産者らは、まだらにならないよう

に、およそ七百箱に丹念にまいていました。

今年の作付面積は約十八ヘクタール。共同育苗施設で一カ月育成された苗は、その後、一本ずつポットに移植され、植え付けられていきます。

昨年は、不順な天候に悩まされ、納得いく収納ができませんでした。「今日の朝日は明るい兆し」となるよう新春の光に願いを込めました。



海童・鹿児島チャレンジ2008

ウインドサーフィン大会

二月九日から十一日までの三日間、海童・鹿児島チャレンジ2008が吹上浜で開催され、選手四十八人が技を競いました。

これはNPO法人江口浜ビーチサービスが主催するウインドサーフィン大会で、全国大会の地区予選を兼ねる大会。

初日はプロクラス、二日目からはアマチュアクラスの競技が行われ、選手は日ごろ鍛えたダイナミックかつ繊細な帆さばきで風と波を捕らえ、ハイパフォーマンスを送っていました。

優勝		特別賞	
プロ	メンズクラス	本橋 政浩	ベストジャンプ賞
	ウィメンズクラス	工藤 麻美	ベストライディング賞
アマチュア	スペシャルクラス	吉富 孝博	
	グランドマスタークラス	吉末 哲	
	オープンクラス	古城門大祐	
	ビギナークラス	北川浩太郎	
		浅野 則夫	
		工藤 麻美	

「マンスを披露。訪れた観客を魅了していました。」

なお、結果は次のとおりです。（敬称略）



エンジョイ・ザ・ピアノ

こけけピアノ・フェスティバル

二月二十四日、東市来文化交流センターで第一回こけけピアノ・フェスティバルが行われ、市内外から演奏者三十四人が参加し、多数の家族が鑑賞しました。

これは東市来文化交流センターの自主事業で、最上級のピアノ「スタインウェイ」に気軽に触れ、音楽に親しみ、舞台演奏の楽しさを知ってもらうとともに、地域芸術文化の創造と発展を目的に行われたもの。

参加者は緊張した面持ちで舞台上に上がりましたが、いざ演奏が始まると練習の成果を発揮し、

気持ちよさそうに演奏していました。応援に駆けつけた家族も心配そうに見守り、演奏が終わるとホッとされた様子で温かい拍手を送っていました。

演奏の合間にはゲストの堀之内喜忠氏による演奏があり、参加者や観客は美しいピアノの音色に耳を傾けていました。

講師では鹿児島女子短期大学の寺蘭玲子教授が「すばらしい響きのホールとピアノで演奏できたことを先生や家族に感謝しながら、毎日コツコツと楽しみながら練習を続けてください」とアドバイスしました。

日置市観光協会発足に向け調印

日置市観光協会合併協定調印式



二月二十五日、市中央公民館で市内四観光協会（東市来、伊集院、日吉、吹上）の合併協定

調印式が行われました。

式では、四観光協会長をはじめ、日置市観光協会合併推進委員や行政関係者が出席する中、合併推進委員会会長の橋口伊集院観光協会会長があいさつ。合併までの経過報告や合併協定書説明の後、宮路市長立会いのもと、協定書に調印されました。

平成二十年四月一日に新たに発足する日置市観光協会。事務所の位置は、当分の間、日置市商工会東市来支所内となります。

女性の視点で魅力ある農村社会に

日置市長と農村女性との懇談会



二月二十二日、日吉保健センターで「日置市長と農村女性との懇談会」が開催され、市内の農業に従事する女性約二十人が参加しました。

懇談会では「女性の農業経営

の参画で、魅力ある農村経営のために」をテーマに、肉用牛農家の今村久美子さん（東市来）、酪農家の内香織さん（伊集院）、ハウス施設農家の二石孝子さん（日吉）が提言。その後の意見交換では、それぞれの提言についての質問や農業の後継者問題、学校給食での食材の提供（地産地消）についてなど、様々な意見が交わされました。

最後は事例・体験談発表で、フランスの農家や学校で研修した船倉里美さん（吹上）が「海外研修を体験して」と題して発表を行いました。

いちごの産地をPR

東市来・伊集院合同いちご品評会

二月二十六日、市中央公民館で東市来・伊集院合同いちご品評会が行われ、伊集院町いちご生産部会から四十点、東市来町いちご生産部会から十八点が出品されました。今年八月の合併を目指す両部会。「いちごの産地」をPRし、生産技術向上を目指すそうと初めて合同で品評会を開催しました。



▲こんなにやくに針針を刺し供養する針職人

針針への日ごろの感謝と仕事の安全を願って

鹿児島県豊工業組合「針針供養祭」

二月八日、徳重神社で豊の伝統を受け継ぐ鹿児島県豊工業組合の針職人がこの一年間お世話になった針針への感謝と仕事の安全を祈願して針針供養祭を行いました。

同組合が毎年行っているこの行事。今年も日置地区での当番

となり、徳重神社で開催された。当日は、市役所直室の豊を徳重神社へ運び、同組合青年部が境内で手縫い作業を上演。その後行われた神事では、針職人がこんなにやくに針針を刺し、針針への感謝と仕事の安全を祈願しました。



▲組合青年部による手縫い実演

多くの人に活用してほしい

芝龍郎さん自身の作品集を図書館に寄贈



▲自身の作品集を寄贈する芝龍郎さん(写真左)

東市来地域の水墨画家芝龍郎さんが、自身の作品集「墨で描く白の世界」を各地域図書館に寄贈しようと二月十九日、市役



所を訪問しました。芝さんは県立種子島高校卒業後、多摩美術大学で日本画を学び、県公立中学校美術教師として三十八年間勤務。その後、水墨画を学び、公民館講座等で講師として活動。現在では、各地で水墨画作品展を開催するなど活躍しています。

当日、芝さんは「今回の出版は人生七十年の古希記念で作品集の出版は今回が初めて。水墨画の普及のため多くの人に活用していただきたい」と作品集を手渡すと、田代教育長は「大切にに使わせていただきます」とお礼の言葉を述べました。

適切な判断と勇気ある行動に感謝

日置市消防本部表彰



▲左から平石博嗣さん、徳留充之さん

十一月二十一日に東市来地域で発生した建物火災で消火活動を行った(株)南九州クボタ湯之元営業所の徳留充之さんと平石博嗣

嗣さんが十二月二十一日、日置市消防本部から表彰を受けました。火災発生時、仕事をしていて二人は、外で助けを求めると、気が付いてみると、ストーブが燃え上がっていたため、同営業所の消火器を使って初期消火を行い、被害を最小限に食い止めた。適切な判断と機敏な行動がなければ、建物は延焼し、甚大な被害が生じていたと思われま

さつまいも食品コンクール

鹿児島県農産物加工推進懇話会



一月十七日、さつまいもを生かした新製品を競う「さつまいも食品コンクール」審査会が鹿児島市のマリンパレスがこしまで行われ、日吉地域にある御菓子司前田家が新商品部門で鹿児島県知事賞を受賞しました。出品したお菓子の名前は「帯刀公の郷」薩摩芋新。地元の吉利でとれた芋を使用した焼き菓子で、芋の形を生かしたデザインや味の良さが特徴です。

男女共同参画社会の実現を目指して

日置市男女共同参画講演会



一月三十日、日置市主催による「日置市男女共同参画講演会」男女共同参画社会の実現を目指して、日置市中央公民館で開催され、日置市男女共同参画懇話会委員など約百人が参加しました。この懇話会は、日置市男女共同参画基本計画策定にあたっての講演会であり、男女共同参画に関する基礎的な知識を学ぶために実施されたものです。

当日、講師を務めた第一工業大学教授の石田尾博夫先生が市町村男女共同参画計画の策定の手引きにもとづき「なぜ男女共同参画社会の形成が必要なのか」「市町村において男女共同参画計画を策定する意義は何か」をわかりやすく説明しました。講演会終了後、第八回日置市男女共同参画推進懇話会が開催され、日置市男女共同参画基本計画(案)がまとめられました。



110番の日

日置警察署 日置地区防犯協会

一月十日に日吉駐在所前で、緊急の通報II地域を守るホットライン「110番の日」キャンペーンを行いました。キャンペーンでは運転者にチラシ等を配布し「110番の日」を呼びかけました。

木洩れ日が往時を照らす

多宝寺跡清掃ボランティア



伊作島津家代々の菩提寺だった多宝寺跡の清掃ボランティア作業が二月二十四日、行われました。

江口蓬萊館



祝! 来館者200万人達成

二月十二日、江口蓬萊館(東市来)の来館者が二百万人に達しました。

平成十五年四月十九日の開館から四年十カ月での達成。記念すべき二百万人目は、孫の希理音(きりね)さん(四歳)と一緒に来館した岩下恭子(くにこ)さん(伊集院地域)でした。ミスひびから花束と小濱美利江口漁業協同組合長から記念品が贈呈されました。また、前後賞となった方々にも記念品が贈呈されました。小濱組合長は、「増築を機に今後とも皆さんに愛される店づくりを目指したい」とこれからの抱負を話されました。

卒業しても交流の架け橋に

マレーシア人留学生送別交流会

鹿児島大学マレーシア人留学生の送別交流会が二月二十三日、伊作地区公民館で行われました。交流会は吹上町マレーシア交流実行委員会が主催したもので、大勢の会員らが、三人の留学生の卒業を祝いました。

鹿兒島大学マレーシア人留学生の送別交流会が二月二十三日、伊作地区公民館で行われました。交流会は吹上町マレーシア交流実行委員会では、母国を離れて学ぶ留学生の日本の家族を募り、里親事業を実施しています。そんな留学生にとって吹上は、第二の故郷となっています。

大型商業施設で「火災予防」呼びかけ

平成二十年春季火災予防運動



三月一日、タイヨー伊集院店で防火訓練が行われました。これは、三月一日から七日までの「春の火災予防運動週間」にあたり、多くの住民が利用する大型商業施設で防火訓練を実施し、火災予防を呼びかけようと呼びかけたもの。訓練では、市消防本部関係者や従業員が見守る中、救助訓練や消火訓練が行われ、防火への注意と火災発生時の連携について確認しました。また、当日はあづま保育園の園児による太鼓演奏と防火チラシ配布が行われ、訪れた人に火災予防を呼びかけました。

この清掃作業は、日新公顕彰会(池上耕正会長)が、伊作島津家に関連する史跡を中心に毎年行っているもの。会員のほか地域からも大勢が参加しました。廃仏毀釈で石亀神社となった多宝寺跡。その社殿の後方に、伊作島津氏歴代領主らが眠っています。参加者は墓碑を傷つけないように、周辺の雑木や土手の茂みを丁寧に伐採。もろくなった石組みを崩さないよう、慎重に作業が進められ、やがて、木洩れ日に、往時の石段や墓石が照らし出されました。私たちの身近にある史跡。その保存は人の手で受け継がれています。

留學生は大学で学びながら、休日には日置市が進めているマレーシアとの国際交流に協力。さまざまな行事に積極的に参加し、料理や遊びなど、同国文化を広く市民に紹介しています。卒業後は帰国し、母国で就職するズラさんは「吹上の皆さん



▲実行委員会からの記念品を受け取る卒業生



▲ヨガ講座生成果発表

一月二十六日、東市来文化交
流センターで、平成十九年度東
市来地域生涯学習フェアが開催
されました。

心豊かな人と文化を育むまちづくり

東市来地域生涯学習フェア

「講座に参加して」の発表会では盆栽講座生、成果発表会ではヨガ講座生が出演していました。講演では、濱田酒造株式会社代表取締役 濱田雄一郎氏が、「いにしへの道を聞かせても唱えてもわが行ひにせずばかひなし」と題し、本格焼酎づくりで苦い経験をした話を中心に講演。会社をオープンにすれば業界や地域が発展することや、「言うばかりでなく、やらないといけない」ことなどを力強く話しました。皆さんも機会があれば、ぜひいろいろな学習会に参加され、刺激を受けてみてはいかがでしょうか。



新 日公民館

いつも笑顔で!

二月二十四日、文化講演会が
日新公民館(日吉)で行われ、

バーバラ植村先生を講師に「人間愛あふれる地域社会の実現に向けて」と題しての講演がありました。八十人の参加があり「自分の事だけでなく人の役に立つ事をしましょう。常に前向きの気持ちで笑顔を忘れずに」と、自身の体験を交えながら話し、最後に特技のタップダンスを披露し参加者から拍手喝采でした。



どんな料理ができるかな? 男性料理教室

今回で九回目になる男性料理教室が、二月二十六日に日吉老人福祉センターで行われました。参加者は七人、生活改善センターの方が講師となり調味料の分量やだしの取りかたなど指導されました。今日の献立は「野菜炒め、鶏のから揚げ、小松菜と桜えびのさつと煮、かき玉汁」。三角巾にエプロン姿がお似合いで包丁も慣れた手つきで野菜を切っていました。自分たちで作った料理に満足そうでした。

あなたも一緒に踊りませんか?

日吉高齢者学級・ダンス同好会

二月十二日にMBC南日本放送局から「地域で支える高齢者」の番組取材があり、ダンス同好会の方々が踊りを披露しました。日吉高齢者学級(社交ダンス)は月一回、ダンス同好会は月二回、八幡公民館で練習。メンバーは男女二十六人で代表者である小嶋さんの指導のもと、ブルース・マンボ・ジルバ・ルンバと曲に合わせてリズムカルに踊ります。



子育て講演会

色で癒され、子どもにも触れて、 子どもの病気について学ぶ

2/6 日吉保健センター

「桃色物語」代表でカラーセラピストの河末正子先生が「色でストレス発散! ストレス発散法のヒントを学んでみませんか?」という演題で講演を行いました。講演では、紙にクレヨンや色えんぴつで自由に色を塗る「らくがきセラピー」を体験。その描き方や色の使い方などでその人の深層心理・潜在意識を知る方法や、色の効果やパーソナルカラーを生活に取り入れることなどの講話に、参加したお母さん方はうなずいたり、熱心にメモをとったりしていました。



▲色で変わる顔色の変化を指導

2/19 東市来保健センター

インファントマッサージ教室「SMILE」代表の亀澤泉先生が「触育ってなに? 子どもとの触れ合いを大切に」という演題で講演を行いました。インファントとは乳幼児、触育とは人との触れ合いから学び育てること。講演会では、オイル(太白ごま油)を使った実技が行われ、セルフマッサージ(自分自身で行う)やインファントマッサージ(赤ちゃんに行う)などを指導。亀澤先生の講話を熱心に聞く参加者は、触れ合いの大切さを実感しながら、楽しく取り組んでいました。



▲インファントマッサージで触れ合いの大切さを学ぶ

生涯学習で住みよい地域を 吹上地域生涯学習

吹上地域生涯学習

平成十九年度吹上地域生涯学習大会が二月九日、吹上中央公民館で開催されました。この大会は、「豊かで誇りを持てる地域づくり」をテーマに、生涯学習を通して住みよい地域づくりを進めようという行われています。



▲終了証が手渡されました



▲熱演する林家染丸さん

公民館講座の華やかなハワイアンダンスで大会が開幕。その成果に来場者は見とれました。大会では、この講座を含む四講座の講座修了生四十人に修了証が手渡されました。また、社会教育功労者として、有馬澄子地婦連会長や流鏑馬保存会など、六人三団体が紹介されました。「生涯学習の一年」では、今年度のさまざまな取り組みが写真で紹介され、「どこにでもある生涯学習」と参加を促しました。海外派遣やふるさと学寮に参加した児童生徒の体験発表

もあり、参加者は一生学び続けることの必要性を再認識したようでした。記念講演には、落語家の林家染丸さんが登壇。地域人権啓発活動活性化事業も兼ね、「笑いあれば憂いなし」の演題で講演しました。染丸さんは朝の連続テレビ小説「ちりとてちん」の落語指導の傍ら、自身も出演。撮影の裏話や、「ロングハウス(長屋)」での生い立ちを披露。軽妙な中にも「人は一人で生まれ、一人で死んで行きますが、決して一人では生きられません」と、支えあうことの大切さを訴えました。後半は高座で落語。古典落語の演目のひとつ「子ほめ」を熱演、会場は笑いの渦に包まれました。

土壁職人の芸術展

吹上地域生涯学習

旧野首小学校(廃校リニューアル五十選、文部科学省選定)のギャラリー野月舎(吹上)で二月九日から九日間、「土」展が開かれました。出展者は、霧島市で左官業を営む末廣行さん。同市の陶芸家の勧めで、職人技に芸術色を取り入れる試みをはじめ、今回その作品を展示したものです。異なる種類の土を重ねたオブジェや、泥ダンゴのように硬く磨き上げられた立体など、多岐にわたる作品が、来場者を驚かせていました。ギャラリー野月舎ではこのような個展のほか、画家佳月優さんの作品を常時展示しています。個展の開催をご希望される方は、野月舎(296・5744)までご連絡ください。



▲土壁塗りの実演中 (写真 ギャラリー野月舎)



▲子どもの病気や症状について丁寧に解説する相星副院長

2/26 市中央公民館

鹿兒島子ども病院の相星壯吾副院長が「子どもを守るプチ医学」子どもに多い病気の症状とその対処法」という演題で講演を行いました。講演には、子育て中のお母さん方約四十人が参加。相星副院長は、子どもの風邪や発熱、アレルギーなどの症状の説明やその対処法について詳しく説明。ユーモアを交えた話しぶりに、参加者は笑ったりうなずいたりしていました。最後は質疑応答。参加したお母さん方は、日ごろの子育てで気になる薬のことや風邪などの感染症の予防についてなど熱心に質問。副院長はそれぞれの質問に丁寧に答えていました。

たこ作り たこ揚げ大会

日置小学校附属幼稚園

一月二十七日、日置小学校附属幼稚園（日吉）でたこ作り・たこ揚げ大会がありました。親子でたこ作りをしてから外は木枯らしの吹く中、親子で楽しめたこを揚げました。



▲生産者に感謝状を贈る児童



子どもの創造教育に理解深まる

子育て講演会

一月二十一日、市子育て支援センターが主催する「子育て講演会」が市中央公民館で行われ、東京都出身で子どもの創造教育に取り組み「童具館」館長の和久洋三さんが「子どもの目が輝くとき」と題して講演。会場には子育て中のお母さん方約五十人が参加しました。

養う「童具」などの開発を手がけ、実際に子どもたちとふれあう創造教育に取り組む和久さんが、子どもの創造性やそれを養う教育について、体験談やユーモアを交えながら講演。和久さんの講話に参加者は笑ったり、うなずいたりしていました。また、当日は託児室もあり、子どもをあずけたお母さん方は、安心して講演会に参加できていたようです。

おいしい野菜をありがとう

吹上の農産物を学ぶ食育授業

吹上地域の農産物を学ぶ食育授業が一月二十五日、和田、花田両小学校で行われました。和田小学校には、アスパラガス生産者と、同地区の直売所「ひまわり館」の出荷生産者三人が招かれました。講師はアスパラガスの生育の状況をイラストで説明したり、おいしい時期や形を身振り手振りで解説したりしました。児童は「アスパラガスのほか

に何か栽培していますか」「一番おいしい料理法は何ですか」など、熱心に質問。吹上の農産物に興味を抱いたようでした。この日の給食は、生産者と一緒においしい野菜をありがとうと感謝状と手作りのカレンダーを手渡しました。生産者は思いがけないプレゼントに満面の笑みを浮かべました。

お招き給食会

日新小学校

学校給食の栄養の大切さ、食に関する意識を高め感謝の気持ちを持ってもらう事をねらいとして、日新小学校（日吉）で一月二十一日から二十五日まで学校給食会が行われました。二十四日は給食調理員の先生から給食に携わる仕事を聞き、二十五日は地場産の食材を作っている生産者（酪農家の迫千穂子さん、きゅうり生産の的場勝さん、大西かおりさん）からの話を聞いた後、生産者と児童と一緒に給食を食べました。児童らは、日ごろ聞けない酪農や農業の仕事の話に興味深く聞き入っていたようです。



健全な子どもの育成をめざして

県PTA活動研究委嘱公開

一月十九日、日吉総合体育館で、県PTA活動研究委嘱公開が行われました。オープニングに日置小学校親子読書会「おはなしくローバー」の寸劇があり、研究発表では各小中学校PTAの発表。その後、研究討議、講評が行われました。また、元大分県佐伯市観光広報係長の矢野大和氏が「生きる力を考えてみよう」という演題で講演。家庭内での日常生活の話や交えた内容で、講師の流暢な語り口に会場は笑いに包まれていました。

冬に集うお話し会

日新小親子読書会

一月二十七日、日新自治公民館で日新小親子読書会主催の冬に集うお話し会が行われました。子どもから大人まで約七十人が集まり、火鉢や囲炉裏を囲みながら鹿児島童話会のお話（民話、童話、紙芝居）などが行われ、参加者は静かに聞き入っていました。

再来年夏の収穫を楽しみに

扇尾小学校「しいたけ駒打ち体験」



二月十二日、扇尾小学校（日吉）の全校児童がしいたけ駒打ちを体験しました。県農林水産林務係の担当者指導のもと、準備していたクヌギの原木にドリルで穴を開け、その穴に児童が椎茸菌を植え込んでいく作業です。

北風の吹く中、校庭での作業に手がかじかんだりしましたが、どの児童も真剣に駒打ちに取り組んでいました。原木は二年間、育成させ再来年の夏に収穫予定。収穫されたしいたけは給食の材料として使われるそうです。

生徒55人 立志の誓いを胸に

日吉中学校立志式

二月七日、日吉中学校で、立志式が行われました。立志式は、「二年生を対象に「自覚と奮起を促すため」の行事。当日は、男女五十五人の生徒が立志の誓いを胸に刻んでいたようです。



「安全な登下校」に 大きな力！

南九州カントリークラブが寄贈

この度、南九州カントリークラブ（伊集院）から、子どもたちの安全な登下校に役立ててほしいと、スクールガード用帽子と腕章、公用車用のマグネットシートが寄贈されました。昨年十一月現在で市内の各小学校でスクールガードの委嘱を受けて活動している方は三百三十六人。この中には、帽子や腕章を着けずに活動されている方もおり、今回の寄贈で、これから数年後まで全てのスクールガードが帽子や腕章を着用して子どもたちの安全を守ることができます。また、市の公用車に貼るマグネットシートにより、防犯の抑止力として大きな威力を発揮できるものと思われま

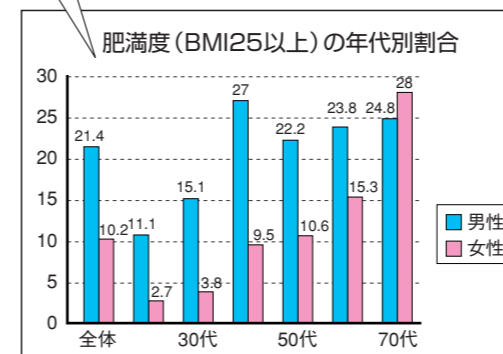


心もからだも健康になればみんな幸せ 男性の食育に取り組む

～日置市食生活改善推進員協議会の重点活動～

今年度日置市全地域で男性の生活習慣が悪いという健康実態調査の結果を受け、日置市食生活改善推進員協議会では「男性の食育」を重点的に取り組んでいます。

40歳代の男性の肥満割合27%



東市来地域おやじの会での調理実習の様子



手つきもなかなかですよ



▲湯田小学校父親クラブでの男性料理教室 (平成19年12月16日)

帰ったら奥さんに作ってあげられるかな

▲上市来校区子育てセミナーでの男性料理教室 (平成19年10月27日)

各地域の実施状況

- 吹上：市役所男性職員等 14人
- 日吉：地区公民館教室生 13人
- 伊集院：シルバー人材・ハンサム教室生 15人
- 東市来：上市来校区おやじの会・湯田小父親クラブ 33人



▲各グループから五十一人の推進員が集まりました



このコーナーに掲載を希望されない方は手続きのときにお申し出ください。

伊集院地域

2月受付分 (敬称略)



(出生児)	(保護者)	(自治会)
上野 結衣	和好	つじヶ丘区
松本 翼	美佐子	妙田寺一区
提 綾心	雄輝	中福良
福留 希	勝利	郡上
牧之内 音大	直哉	郡下
岩田 優大	一郎	徳重東
竹本 和華	尚己	清藤
増山 歩真	裕樹	妙田寺九区
荒谷 ゆい	祐樹	郡上
上野 悠斗	正史	瀬戸内
春内 天斗	喜之	瀬戸内
春内 陽斗	喜之	瀬戸内
黒木 帆	泰治	郡内
島中 悠帆	史郎	古城
諸正 寛斗	史郎	古城
菊永 蓮音	大五郎	妙田寺三区

伊集院地域

2月受付分 (敬称略)

(出生児)	(保護者)	(自治会)
新堀 晃大	秀彦	下中之里
漆島 夢依	久志	下田尻
松元 悠聖	宏樹	新川原
山下 祐樹	憲博	下中之里

(出生児)	(保護者)	(自治会)
宇都 心晴	洋一	上伊作田
西上原 優斗	要	堀内
日吉地域	(保護者)	(自治会)
上野 姫愛	裕司	日置麓
吹上地域	(出生児) <td>(保護者) </td>	(保護者)
假屋フチノ	中神殿	中神殿
有馬 藤春	つじヶ丘二三区	猪鹿倉
眞田 文三	80	上土橋
坂上 トヨ	88	妙田寺二区
茶屋道イチ子	59	末永
四郎園フヂエ	82	つじヶ丘区
濱田未知子	92	駅前
柿内明美	68	下土橋
加治屋ミチ子	76	下神殿二区
奥 ユミ子	75	中福良
米澤 ミエ	88	妙田寺七区
今村 肇	85	やはずの里
石川 ハル	108	清藤

(出生児)	(保護者)	(自治会)
山下アキエ	大平	北山
福田 ミエ	堀内	北山
山之内重志	北山	堀内
福田 エミ子	野下	北山
立和名政彦	元湯	野下
木場キヨ子	平迫比良	元湯
永井福貴子	田代	平迫比良
清藤 廣二	田代	田代
橋口 肇	上野西	上野西
中園 キミ	下養母	下養母
脇田 登	下養母	下養母

二月十六日、東市来地域鶴丸校区で、第二十九回ふれあい文化財史跡めぐり歩こう会が行なわれました。

これは、文化財、史跡散策を通じて、郷土に対する認識を深め、地理的特性や歴史・自然との調和を生かした郷土づくりを図るために、市教育委員会と東市来地域子ども会育成連絡協議

健康であり続けるために

二月二十三日、せつべとべひよし館(日吉)で健康づくり教室が行われました。

講師はコミュニティスポーツクラブ「チェスト伊集院」の船倉祥子先生です。

軽いストレッチや室内でできる体操など話を交えながらの指導に参加者は息を弾ませ楽しんで運動をしていました。



日置地区中央公民館活動

ふれあい文化財史跡めぐり歩こう会

二月十六日、東市来地域鶴丸校区で、第二十九回ふれあい文化財史跡めぐり歩こう会が行なわれました。

これは、文化財、史跡散策を通じて、郷土に対する認識を深め、地理的特性や歴史・自然との調和を生かした郷土づくりを図るために、市教育委員会と東市来地域子ども会育成連絡協議

会が毎年行います。今年は、鶴丸校区の散策で、鶴丸小学校の校庭に集合しました。

四百五十人の各校区参加者や一般参加者で校庭はあふれ、各班に分かれ散策し、鶴丸城跡、大日寺跡、春日神社、永山在兼(ありかね)の墓、石敢當(せつかんどう)などをめぐり、各史跡の説明担当になった中学生や各班の講師から説明を受け、有意義な散策となりました。

来年は、伊作田校区の史跡散策です。皆さんもぜひ機会ですので、ぜひ参加してみたいかがでしょうか？

ギャラリー 私の作品展
『はぎれを使った小物づくり』

二石 政子さん(66歳) 日吉町神之川

定年を迎え、長野県の軽井沢に住む妹のすすめで始めた小物づくりは今年で5年目になります。ほとんど独学で学んできた小物づくり。「様々な種類・色の布を自分のアイディアで組み合わせ、イメージどおりに完成した時が一番うれしい」と二石さん。自宅横のギャラリー兼工房では、時間も忘れて創作に熱中することも。「夢は自分のお店を持つこと」と張り切る二石さんからは、小物づくりへの思いが伝わってくるようでした。



ウォッチまちの文化財 34

せっかんとう 石敢當 (東市来地域)

東市来地域杉之迫自治会の、国道3号線脇の三叉路に、「石敢當」と刻まれた石碑があります。安永3年(1774)に建てられたもので、高さ164cm・幅35cm・厚さ22cmです。東市来地域には同じような石碑が16基ありますが、その中で最大のものです。おそらく県内でも最も大きな石敢當のひとつでしょう。

「石敢當」は「石敢当」と書かれることもあります。もともとは中国のもので、日本では沖縄に多く見られます。鹿児島でも各地で作られており、日置市内でも多く見かけます。T字路や三叉路などの道路のつき当たりやに建てられており、魔物の侵入を防ぐとされています。「石敢當」の由来ははっきりしませんが、昔の中国の武将(もしくは力士)の名前であるともいわれています。

杉之迫の石敢當には、「石敢當」の文字の下に「右ゆのもと」とあり「刻まれており、道標も兼ねていたと推測されます。その右側に「安永三甲午十一月吉日」、左側に「杉之迫郷中」の文字が刻まれています。



〈引用参考文献〉
東市来町郷土誌

Access
本庁から車で15分、
東市来支所から車で1分



ぼくは、八十才になっても元気でソフトテニスがしたいです。父の影響でぼくもソフトテニスを始めました。そして、鹿児島県主催の親子兄弟夫婦大会に親子の部で出場したことがあります。父とペアを組んで、とても楽しい試合ができました。参加者の中には兄弟のペア、夫婦のペア、親子のペアで出場している家族もあり、ソフトテニスを楽しんでいました。将来ぼくも、弟と組んで兄弟ペア、父、母と組んで親子ペアなど、いろいろな組み合わせでエントリーして、楽しいテニスをしたいです。そして、まだまだ先の話ですが、ぼくがお嫁さんをもつたり、「夫婦ペアもいいかな」と思っています。

ぼくも今年中学校に入学するけど、出来る事なら県大会で上位に入り、全国大会を目指したいと思っています。



ぼくらのソフトテニス

湯田小学校六年 久保 龍太郎くん



すが、それだけでなく、いくつになっても「楽しいソフトテニス」が出来るように、苦しい練習にも耐えてがんばってほしいと思います。

いきいき ひと

シリーズ34



兄弟でエール チームの成長を見守り続けたい

「日置チーム総合第六位」。今年の県下一周市郡対抗駅伝競走大会(以下、県下一周)で活躍し、一昨年総合八位、昨年総合七位と一ずつ順位を上げてきた日置チーム。そこには死力を尽くして激走した選手のがんばりはもちろん、その影でチームを盛り上げてきたスタッフの支えがありました。

兄弟で県下一周に携わるのは吹上地区後援会の兄今屋政市さんと日置チームコーチの弟今屋譲さん。譲さんは県下一周に過去三回の出場経験があり、前監督から誘われコーチに。女子チームコーチを経て現在は男子チームコーチとして活躍しています。「県下一周のコーチは七年目。練習会では、選手のタイム計測や健康管理、アドバイスなどをします。県下一周は晴れの舞台。自分の経験から、現役選手にも県下一周の感動を味わってほしいという思いで指導に当たっています」と譲さん。一方、政市さんは平成十三年に立ち上げた吹上地区後援会の創設メンバーの一人。スポーツ好きで、譲さんの陸上をいつも見てきた政市さんは「選手にとって、沿道での声援は大きな力になる。地元出身選手だけでなく、チーム一丸となるよう皆で応援していきたい」と応援にも熱が入り、県下一周のほか、女子、中学生駅伝も応援しています。

今大会、吹上から七人の選手が出場し、高校生や大学生の活躍が目を見張る日置チーム。「社会人と練習する学生は社会経験ができ、この経験がこれからの選手を成長させる。これからのチームの成長を見守り続けたい」と二人、チームを引っ張っていく若い世代と、それを支えるスタッフ。日置チームの今後の活躍に期待がかかります。



いまや 今屋 政市さん[55歳]
いまや 今屋 ゆずる 譲さん[49歳]

吹上町永吉(印口自治会)

写真左-政市さん
●たばこ農家
県下一周駅伝吹上地区後援会
写真右-譲さん
●日置市消防本部北分遣所勤務
県下一周駅伝日置チームコーチ

わんぱく直送便

元気のあるお子さんの写真を募集しています。

市内に在住の6歳以下のお子さん
①氏名②生年月日③保護者氏名④お子さんの近況(お子さんへのコメント)
⑤広報へのご意見⑥連絡先を添えて、市役所総務企画課(住所は末じまでお送りください)。

田中 快音くん(1歳6か月)
父 誠さん 母 真由美さん (吹上町中原)
■おかあさんから
好奇心旺盛で、家でも外でも元気一杯遊んでいます。また公園に行ったらたくさん遊ぼうね。

小田 苗季ちゃん(1歳10か月)
父 明さん 母 潔子さん (吹上町中之里)
■おかあさんから
おしゃべりが大好きな苗季ちゃん。いつもたくさん笑顔をありがとうね。



鹿児島県日置市

市の人口 (住民基本台帳)

総人口 52,326人(△107)
男 24,432人(△ 70)
女 27,894人(△ 37)
世帯数 22,264 (△107)
3月1日現在 ()は前月比

市の面積 253.06km²

今月の表紙



どんな料理ができるかな？

日吉老人福祉センターで行われた男性料理教室。三角巾にエプロン姿の参加者は、講師に指導を受けながら調理。テキパキとした動きと手馴れた包丁さばきは主夫さながらでした。

(2/26 男性料理教室 P12関連記事)

No.35 平成20年3月号

発行/日置市役所 総務企画部企画課

〒899-2592 日置市伊集院町郡一丁目100番地

TEL 099 (273) 2111 FAX 099 (273) 3063

東市来支所 TEL 099 (274) 2111

日吉支所 TEL 099 (292) 2111

吹上支所 TEL 099 (296) 2111

http://www.city.hioki.kagoshima.jp/

わが地域

坊野地区公民館 (吹上地域)



吹上地域北東に位置し、山手、柱野、坊野上、坊野下、高田、田代野の六自治会で構成される坊野地区。平成二十年三月一日現在、百十一世帯、二百十四人が暮らしています。
県指定文化財の「黒川洞穴」は地区の宝。地名の由来も、洞穴内に建てられた「児の塔」に「一乗妙典讀誦僧覺尊」と銘があり、「竜巖寺(一乗院)の僧坊(僧侶の住居)のある野(原)」から坊野と呼ばれるようになったようです。



▲県指定文化財「黒川洞穴」は地区の宝。



▲能勢清美館長

坊野地区公民館(吹上地域) 歴史を未来に生かすまちづくり

坊野地区には県指定文化財の「黒川洞穴」のほか、西郷隆盛にゆかりのある手洗鉢(ちようずばち)や御座石(おんざいし)、また誓鏡師(せいがいし)の墓所、床並城と五輪塔など数多くの史跡があり、文化財保存や地区史の発行等に地区を挙げ取り組んでいます。
縄文早期からの住居跡「黒川洞穴」や、縄文晩期の「黒川式土器」の郷として『歴史を未来に生かすまちづくり』を積極的にすすめている地区。地区公民館は二十数年前に閉校した坊野小学校跡に設置され、構造改善センターや屋内体育館も併設されました。少子高齢化が進む中、地区公民館を拠点として、生涯学習、スポーツ活動等によって地区民の親睦も盛ん。近年は「めざそう 長寿の郷 日本一」「笑い笑顔の郷 坊野」

を合い言葉に、健康づくり活動を推進しています。
一 月に行われる坊野歴史探訪(健康づくり歩こう会)は、「元気な市民づくり運動」推進を受けて始まった取り組み。毎年、約五十人の住民が参加し、地元を歩きながら歴史を学ぶことで、地区の歴史を学びながら健康増進も図れると、参加者から好評です。
「縄文競争」は地区運動会十八回を数えた運動会の初回から続く種目は、選手が縄をなう速さを競う市内でも珍しい競技。日ごろの健康づくりが功を奏し、



▲坊野歴史探訪(健康づくり歩こう会)

三 月十六日には地区を組織する六自治会が統合し、坊野自治会となりました。「様々な行事で積極的な住民参加、いつも笑いが絶えない地域です。少子高齢化の悩みはどこも同じ。それなら、わが地域は高齢者がいきいきと過ごせる地域にしよう」と取り組んでいます。地区内全集落で「いきいきサロン」設立が今後の目標。これからの歴史を守りながら、住民が元気な地域にしたいです」



▲地区運動会「縄文競争」